

特集 「蚊媒介性感染症」

デング熱・チクングニア熱・ジカウイルス感染症の予防法

デング熱、チクングニア熱及びジカウイルス感染症には国内で使用可能なワクチンが現時点ではありません。そのため蚊媒介性感染症の発生を防ぐには、蚊を発生させない、媒介する蚊に刺されないなどの予防対策をとることが重要です。

1 蚊の発生を防ぐ

蚊の幼虫（ボウフラ）は植木鉢やプランターの水受け皿など水が溜まる小さな容器に発生します。このためボウフラが発生しないように一週間に一度は雨水がたまった容器を逆さにするなどして、水が溜まらないようにしましょう。また古タイヤなどは放置しないことが望ましいですが、片付けられない場合はコップ半分ほどの塩を入れておくと夏期の間蚊の発生を抑えることが期待できます。

2 蚊の吸血を防ぐ

国内には蚊媒介感染症の媒介蚊のひとつであるヒトスジシマカが生息しています。ヒトスジシマカは早朝・昼間・夕方（特に日没前後）に活発に吸血する習性があります。蚊に刺されないためにはその時間帯に特に注意を払うことが必要で、長袖シャツ・長ズボンの着用など肌の露出を避けることと、忌避剤の利用が効果的です。防蚊対策として有効な忌避剤の成分には「ディート（DEET）」と「イカリジン（ピカリジン）」の2種類があります。今まで国内ではディートを含む忌避剤が市販されていましたが、2016年3月以降、イカリジンを主成分とする新たな忌避剤も発売されました。ディートは小児への使用に際して年齢により使用回数に制限がある製品がありますので、必ず

添付されている使用上の注意を守って適正に使用しましょう。なお、いずれの薬剤も発汗量が多い場合は有効時間内でも効果が低下しますので適用範囲内でこまめに塗布することを心がけましょう。

家屋では、網戸や扉の開閉を極力減らし、屋内への蚊の侵入を防ぐことも重要です。蚊取り線香、蚊取りマット、液体蚊取りなどの殺虫剤は殺虫効果の他に忌避効果や吸血を阻害する効果も期待されるため、これらを使用する方法も効果的です。薬剤の使用以外では、蚊帳の使用も有効です。

3 適切な性行動

デングウイルスとチクングニアウイルスは人を介して感染することはありません。しかし、ジカウイルスは人から人へ感染する可能性があり、性行為によりパートナーへ感染した事例が報告されています。妊婦がジカウイルスに感染すると胎児は小頭症等の先天性障害を起こす可能性がありますので、ジカウイルス感染症流行地域から帰国した男女は、症状の有無にかかわらず最低8週間、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用する、または性行為を控えることが推奨されています。

（西澤 佳奈子 kanken-kansen@pref.nagano.lg.jp）



写真 蚊の幼虫の典型的な発生源